

生徒が戻ってきた学校で

この月曜日から分散ですが「登校可能日」とうことで生徒たちが学校に戻ってきました。しかし、学年ごと、しかも半数ということで最大90名で、1時間のHR活動が中心ですから、生徒たちの声が学校中に響くということまでありませんでした。どちらかというと学級担任の張り切った声が響いていた気がします。学校にとっては当たり前のチャイムの音が46日ぶりに響き、何か新鮮な感じを受けました。

何より久しぶりに登校してくる生徒たちの笑顔にほっとしました。そして、この2か月近く、部活動を含めて学校に全く登校できない中で、家庭学習を頑張り、厳しい自粛期間を耐えた生徒たちを褒めなければと感じました。さらに、保護者の皆様には、健康チェック・宅配・郵便対応等にご協力頂きましたことに深く感謝申し上げます。

新年度に入っても、新型コロナウイルス感染症対応に追われる毎日でしたから、後ろを振り向いている時間や気持ちの余裕はありませんでした。しかし、来週からの学校再開前に、ふと変更しに次ぐ変更で変わってしまったのですが、もともとの年間カレンダーを見ると、この時期には様々な行事が入っていました。

5月25日(月)はオープンスクールの代休で、オリンピックの聖火ランナーが本校区を走るのを応援する予定でした。さらに、吹奏楽部が天文科学館でのスタートイベントでファンファーレの演奏をすることになっていて、その楽譜も学校に届いていました。また、学校行事では、1年生は「オリエンテーション合宿」が5月27・28日に、2年生は来週6月1日から「トライやる・ウィーク」が、そして、3年生は6月3日から「修学旅行」という、どの学年も中学校生活の中でも大きな活動があったんだと校長室で考えていました。

しかし、後ろを振り返っている時間があるならば、今何ができるのかに頭を働かせ、そして、できることから実行していただくです！「前日はもとより、朝の会議で決めた内容がその日のうちに変わることがしょっちゅうありました。「朝令暮改」は、悪いたとえに使われますが、朝決めたものより、もっと良い方法が夕方に見つかれば、どんどん変更して改善していけばよいと思っています。「ベスト」の選択は難しくとも、「マッチベター」な選択ができるようこれからも模索を続けていきます。そのために、当初に予定していたことから、急な変更をお願いすることがあるかもしれませんがよろしくお願いします。

よく校長OBや地域の方から「校長先生大変ですね」と声をかけて頂きますが、そうは思いません。6月1日の学校再開後が私たちの本番ですし、そして、何より一番大変な思いをしているのは生徒たちや保護者の皆様です。3年間目標にしてがんばってきた部活動の大会が中止になる、入学式1日だけしか登校していない等、自分の責任ではないことで強いられる我慢や不安を多く抱えてながらの再スタートです。どのように声をかけ、寄り添い、フォローしていけばよいのか、教職員全員で考え、知恵を出し合い、それぞれの立場で支えていきたいと考えています。